



⑥自衛隊ヘリコプターへの試乗体験
 ⑦社会福祉協議会のボランティア受付訓練
 ⑧自動車を利用したドリンクサーバーへの給電体験
 ⑨自衛隊ヘリコプターへの物資輸送訓練
 ⑩対策本部から駆け付けた荒木市長(左)と坂本議長(右)

①物資輸送訓練のため市役所へ向かう自衛隊ヘリコプター
 ②災害対策本部での情報収集訓練
 ③市内4カ所の訓練の様子を共有する対策本部のモニター
 ④地域コミュニティで発足した避難所運営委員会の防災講演
 ⑤個別空間を確保するパーティション設置訓練

●問い合わせ先
 交通防災課 ☎(248)1555

「まさか」に備えて
 今回の訓練は、震度6以上の地震が発生したという想定で、自衛隊や災害協定事業者などの防災関係機関との連携や、地域コミュニティや小学校区などの地域防災力の強化を目的として実施しました。第2工業団地を中心に市全域において、初の市職員も全員参加する大規模な訓練となりました。大規模災害の場合、行政機能は低下し、避難所に配置できる職員は限られるため住民主体での避難所運営が求められます。全般を通じて「自分達の地域は自分達で守る」という意識で市民の皆さんと職員、そして関係機関が連携した訓練を重点的に取り入れたことにより、さまざまな成果と課題を発見することができました。



交通防災課 黒岩 久男 防災対策監

訓練の様子をタブレットで撮影し、ライブ映像として本部対策室のモニターで共有しました。災害時に現場の被害状況などを職員が対策本部に伝えるための検証訓練であり、対策本部長(市長)が意思決定するための情報資料となります。

災害対策本部訓練
 訓練の様子をタブレットで撮影し、ライブ映像として本部対策室のモニターで共有しました。災害時に現場の被害状況などを職員が対策本部に伝えるための検証訓練であり、対策本部長(市長)が意思決定するための情報資料となります。

物資輸送訓練
 支援物資が入ったダンボール箱約600個を陸上自衛隊のヘリコプターなどで輸送しました。輸送先の第2工業団地ではヘリコプターから降ろした物資を職員とボランティアの皆さんで手際よく運ぶ訓練を行いました。

避難所開設・運営訓練
 地域住民と職員の協働により、市内4カ所の地域コミュニティや学校区で実施しました。南ヶ丘小学校では、避難所運営委員会を発足し、住民主体での避難所運営が行なわれました。

車両避難者受付訓練
 災害協定を結んだ株式会社日本エスシーマネジメント(アンビー熊本)および株式会社ニシムタの駐車場を緊急避難場所として、約90台の車両を使い実施しました。二次元コードをスマートフォンにより読み取ることで、多くの避難者情報を素早く確実に登録できる検証し成果を得ました。